

第5回所長講話 「おみやげ」はなんですか？

本研究所では、教育研究員の「教育者としての専門性と確かな力量と総合的な人間性を高め、資質の向上を図る」ことを趣旨として、所内研修を実施しています。

「所長講話」は長期研修の6ヶ月間の間に5回実施しました。そのほかにも、毎週金曜日に行うミーティングの時「ミニ所長講話」を実施してきました。

【所長講話の主な内容】

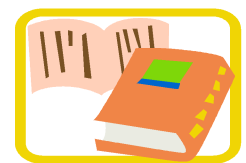
- はじめに
 - ・沖縄の文化・歴史に誇りと自信
 - ・「沖縄の民話」(2話読み聞かせ)
- 1 「世界」は「日本」は「沖縄」は、今
 - (1) 自然災害、人的災害、戦争、テロ、伝染病等
 - (2) 「畏敬の念」を忘れない
 - (3) 痛ましい事件・・・人はどのような「教育」を受けたのが大切
- 2 「おみやげ」は？と研究員に問う
 - いつでも学び続けることが大切(金城睦子)
 - 研究をできたこと(上原馨)
 - やればできるということ(下地こず恵)
 - 人とのつながりコミュニケーションと、人間関係(仲門学)
 - 人は必ず成長する、伸ばしてくれる人の存在が大切(横田純子)
- 3 現場での教育実践に期待すること
 - (1) 子どもをかけがえのない存在として「うむいとくさてい」
 - (2) モデルである教師として、良い習慣を身につける
 - (3) 読書をする習慣
 - (4) 五感を生かした本物体験
- むすびに
 - ・健康が大切 ・自分のことをいたわれるのは自分



写真1 所長講話



写真2 沖縄の民話を読み聞かせ



【研究員の感想】

とうとう今日で所長講話も最終になってしまいました。所長からは、講話やミーティングなどいろいろなお話が聞くことができ、とても勉強になりました。

今回所長が「沖縄の民話」について、紹介して下さった本は見たことがあります。内容は見たことがありませんでした。私や幼稚園にあるものは幼児用の絵本でその話はなかったので、地域の民話を知ることの大切さを学びました。

「おみやげ」では、研究員の皆、学んだことは違っていますが子どもと共に創る保育や授業、と共通の思いは1つだと日々一緒に過ごしてきた仲間から感じています。

最後に所長が現場で期待することを胸に止め、自分自身を磨き子ども達のモデルになれるように努力していきたいです。

子ども達には行事や遊びの中でどのような五感を育てることができるか、地域性を活かしながら他の職員と一緒に検討していきたいです。ありがとうございました。(金城睦子)

最後の所長講話でした。ふと、これでじっくり所長のお話を聴く機会も無いのかと思うと、とても残念で、一言一句、漏らさず書き留めたい、また、所長の表情を見ながら私たちへ込められた想いをしっかりと心に刻みたいという二つの気持ちが強く心にありました。

この半年間、所長がおっしゃっていた大切なことを再確認しつつ、民話の読み聞かせや、私たちへの「おみやげ」は？の質問等を交えながらのご講話でしたので、いい学びの振り返りをさせていただきました。

入所当初の初心と研修を修了する今の自信を忘れないために、研修日誌や記録ノート等を振り返る時間を作ることを習慣にしようと思います。そして、子ども達一人ひとりをしっかり見て、名前を呼んで話すことも習慣にしたいです。他にもたくさんの教えがありました。一つクリアするごとに次のめあてとして設定し、自分を高められたらと思います。

本当に、上原勝晴所長の素敵な想いのこもったご講話、ありがとうございました。（上原馨）

今日は最後の所長講話でした。所長のお話は、常に「教育とは何か」ということを考えさせられました。世界や日本の今、沖縄の歴史・文化、民話、方言など、どのお話でも「多くの視点から考える」ことの大切さを学ぶことができ、視点を変えることで気づかされたことも多くありました。現場に戻っても、教師として「多くの視点から考えること」を習慣化していきたいと思います。

所長のお話の最後に「子ども達を人として、かけがえのない存在であると心の底から思うこと」とおっしゃっていました。心に響く言葉でした。学校現場に戻っても、これまでいただいた多くの言葉を忘れず頑張っていきたいと思います。また、所長のお話で学んだことも「おみやげ」にして、学校現場に配っていこうと思います。（仲門学）

半年間の研究所での研究もあと1日で、明後日には学校現場に戻ります。学校現場を離れて、自分の研究のことや所内研、所外研を通してたくさん勉強させてもらいました。

現場を離れ、子ども達との関わりがない中で、子どもとの関わり方について振り返ってみる時間がたくさんありました。

今日の所長講話で、「今を生きている、未来がある、未来にかかわる仕事をしている」という言葉を聞いて、改めて教師というすばらしい仕事について自分は幸せだなと感じました。けれど、それは子ども達に関わっている分の責任の重さも感じました。未来がある子ども達に関わっている、やりがいのある仕事なので研究所で学んだたくさんのことを還元できるようにしていきたいと強く思いました。そのためには、いろいろな視点で物事を考え、そして学び続けていくことができるようにしていきたいです。研究所で所長講話を聞くことができるとても勉強になりました。ありがとうございました。

（下地こず恵）

所長のお話を聞いて「教師は私の天職だ」との思いを再確認することができました。

私の目の前の生徒の幸福のために本気で徹底的にかかわることで、その子の未来にかかわることができる、未来に関われる仕事ができる喜びとその責任の重さをかみしめています。

私は、島尻教育研究所で所長をはじめ主任指導主事や指導主事の先生方、指導講師の先生に愛情をもって大切に育ててもらった経験をそのまま生徒や後輩に返していこうと思います。それこそが、私がここで、学んだことの意義だと確信しています。

所長講話で教わったことをいくつものことが習慣になるまで思い返して、いつでも意識して行動しようと思います。まずは「できない理由ではなく、できることを見つける」心の持ち方をし、計画、実践を積み重ねていくことです。そして、だれにでもできる「意識して子どもの名前を呼ぶ」ことからです。

創立20周年を迎え、私たちは第40期。そして私は、50歳。いくつになっても、学べることを実感でき、研究所に来て本当によかったと思っています。ありがとうございました。たくさんの示唆を与えてくれた、所長との出会いに感謝しています。本当にありがとうございました。

いかされていることに感謝し、これからも前向きに頑張っていこうと思います。（横田純子）